

科目名	中国語1b A (遠隔授業)	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	朱 継征		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-1-320228		国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること		
授業の目的	<p>要領よく説明すれば、誰でも母語話者同然の発音、会話、作文ができる。しかし、習ったばかりのものは定着しにくくて、授業が終わるとすぐ忘れかけてしまう。母語話者の真似をすることが簡単であるが、それよりも母語話者同然の熟練度と定着度で中国語を操作できるかどうか肝心である。私が開発した「速問即答教授法」は、母語話者同然の発音、会話、作文ができた上で、高頻度、高速度の練習によって母語話者同然の熟練度と定着度を目指すものである。</p> <p>発音の段階では、数多くの類似したピンイン(例えば、前鼻音と後鼻音、無気音と有気音、舌面音と舌歯音、捲舌音と舌歯音)をペアで並べて、集中的に聞き分け、発音し分けの作業をすることにより、熟練度と定着度を高める。語彙の段階では、学生の既習知識を最大限に利用して、日中同形同義の語彙を優先に活用してもらう。</p> <p>会話の段階では、指定構文と大量の単語を用意し、「速問即答方式」の問答練習によって会話力、作文力を高めて定着させる。一回の授業(90分)では、数百回ほど問答してもらう。30人のクラスでは、一人あたりに5～10回以上、15人のクラスでは、一人あたりに10～20回以上問答してもらう。このように高頻度、高速度の受発信することにより会話力と作文力を高める。「速問即答方式教授法」によって、奇跡的に素早く、しかも楽しく中国語を身につけてもらうことがこの授業の目的である。授業は下記の計画で進めていくが、授業の状況によって若干変更する場合もある。</p> <p>担当教員としての私は身体でマスクをしたまま授業すると呼吸困難になる恐れがあるので、お互いの安全のために、今学期15回の授業を全部オンライン授業にします。オンライン授業は、中国語会話や口頭作文練習の能率を上げることができ、積極的な意味もあります。</p>				
学修到達目標	正しい発音を修得し、基礎的な文法を理解し、常用単語をできるだけ多く覚え、各種の練習、とくに会話活動を通じて、単語と文法の活用と口頭作文の能力が身につく。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	中国語発音の概要と単母音
第2回	声調と複母音
第3回	子音【1)唇音 2)舌尖音 3)舌根音 4)舌面音 5)舌歯音 6)捲舌音】

第4回	子音 【 1)無気音 2)有気音 3)無気音と有気音の聞き分け 】
第5回	鼻母音 【 1)前鼻音 2)後鼻音 3)前鼻音と後鼻音の聞き分け 】
第6回	音節構造 【 1)軽声 2)第3声の変調 3)母音“e”の変化 】
第7回	総合練習(1) 【 1)聞き分けの総合練習 2)発音し分けの総合練習 】
第8回	総合練習(2) 【 発音の小テスト 】
第9回	会話1 【 1)人称代名詞 2)疑問詞 3)構造助詞 4)姓名の聞き方 】
第10回	会話2 【 1)場所代名詞 2)数量詞 3)親族呼称 4)省略疑問文 】
第11回	会話3 【 1)指示代名詞 2)時間詞 3)名詞述語 4)“是”構文 】
第12回	会話4 【 1)動詞述語文 2)前置詞 3)動相助詞 4)“在”構文 】
第13回	会話5 【 1)形容詞述語 2)疑問文 3)語気助詞 4)“有”構文 】

第14回	会話6【1)一般疑問文 2)助動詞 3)主述構文 4)基本構文(1)】
第15回	会話7【1)選択疑問文 2)連動文 3)日常用語 4)基本構文(2)】
第16回	期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間。学習する課の単語と本文を予習する。
【復習】時間・内容	1時間。授業で学んだ内容についてCDを聞いて繰り返し練習し、単語、語法、本文などを復習する。

成績評価	
評価基準・方法	期末試験の点数(60%)、毎回の授業での作文と会話(30%)、授業参加状況(10%)を合わせて総合的に評価する。
フィードバック方法	定期試験とくに口述試験の成果や問題点を総括して説明する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	『速問即答中国語・入門編』朱 継征著、朝日出版社
受講上の留意点等	時間かけて予習・復習をすること、積極的に作文や会話に取り組むこと。
JABEE	

科目名	中国語1b B (遠隔授業)	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	朱 継征		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-1-320228		国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること		
授業の目的	<p>要領よく説明すれば、誰でも母語話者同然の発音、会話、作文ができる。しかし、習ったばかりのものは定着しにくくて、授業が終わるとすぐ忘れかけてしまう。母語話者の真似をすることが簡単であるが、それよりも母語話者同然の熟練度と定着度で中国語を操作できるかどうか肝心である。私が開発した「速問即答教授法」は、母語話者同然の発音、会話、作文ができた上で、高頻度、高速度の練習によって母語話者同然の熟練度と定着度を狙うものである。</p> <p>発音の段階では、数多くの類似したピンイン(例えば、前鼻音と後鼻音、無気音と有気音、舌面音と舌歯音、捲舌音と舌歯音)をペアで並べて、集中的に聞き分け、発音し分けの作業をすることにより、熟練度と定着度を高める。語彙の段階では、学生の既習知識を最大限に利用して、日中同形同義の語彙を優先に活用してもらう。</p> <p>会話の段階では、指定構文と大量の単語を用意し、「速問即答方式」の問答練習によって会話力、作文力を高めて定着させる。一回の授業(90分)では、数百回ほど問答してもらう。30人のクラスでは、一人当たり5～10回以上、15人のクラスでは、一人当たり10～20回以上問答してもらう。このように高頻度、高速度の受発信することにより会話力と作文力を高める。「速問即答方式教授法」によって、奇跡的に素早く、しかも楽しく中国語を身につけてもらうことがこの授業の目的である。授業は下記の計画で進めていくが、授業の状況によって若干変更する場合もある。</p> <p>担当教員としての私は身体でマスクをしたまま授業すると呼吸困難になる恐れがあるので、お互いの安全のために、今学期15回の授業を全部オンライン授業にします。オンライン授業は、中国語会話や口頭作文練習の能率を上げることができ、積極的な意味もあります。</p>				
学修到達目標	正しい発音を修得し、基礎的な文法を理解し、常用単語をできるだけ多く覚え、各種の練習、とくに会話活動を通じて、単語と文法の活用と口頭作文の能力が身につく。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	中国語発音の概要と単母音
第2回	声調と複母音
第3回	子音【1)唇音 2)舌尖音 3)舌根音 4)舌面音 5)舌歯音 6)捲舌音】

第4回	子音 【 1)無気音 2)有気音 3)無気音と有気音の聞き分け 】
第5回	鼻母音 【 1)前鼻音 2)後鼻音 3)前鼻音と後鼻音の聞き分け 】
第6回	音節構造 【 1)軽声 2)第3声の変調 3)母音“e”の変化 】
第7回	総合練習(1) 【 1)聞き分けの総合練習 2)発音し分けの総合練習 】
第8回	総合練習(2) 【 発音の小テスト 】
第9回	会話1 【 1)人称代名詞 2)疑問詞 3)構造助詞 4)姓名の聞き方 】
第10回	会話2 【 1)場所代名詞 2)数量詞 3)親族呼称 4)省略疑問文 】
第11回	会話3 【 1)指示代名詞 2)時間詞 3)名詞述語 4)“是”構文 】
第12回	会話4 【 1)動詞述語文 2)前置詞 3)動相助詞 4)“在”構文 】
第13回	会話5 【 1)形容詞述語 2)疑問文 3)語気助詞 4)“有”構文 】

第14回	会話6【1)一般疑問文 2)助動詞 3)主述構文 4)基本構文(1)】
第15回	会話7【1)選択疑問文 2)連動文 3)日常用語 4)基本構文(2)】
第16回	期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間。学習する課の単語と本文を予習する。
【復習】時間・内容	1時間。授業で学んだ内容についてCDを聞いて繰り返し練習し、単語、語法、本文などを復習する。

成績評価	
評価基準・方法	期末試験の点数(60%)、毎回の授業での作文と会話(30%)、授業参加状況(10%)を合わせて総合的に評価する。
フィードバック方法	定期試験とくに口述試験の成果や問題点を総括して説明する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	『速問即答中国語・入門編』朱 継征著、朝日出版社
受講上の留意点等	時間かけて予習・復習をすること、積極的に作文や会話に取り組むこと。
JABEE	